

### 第3回 校内研究 授業記録

平成30年9月26日(水) 第5校時

第1学年2組 24名

授業者 小沼 繁徳

授業者の様子(発問・指示・援助)	児童の様子
<p>1 「うそをついたことがあるかどうか」についてのアンケートを振り返る。</p> <p>T:「17人。これは何の数字でしょう。」</p> <p>T:「これは昨日とったアンケートの、嘘をついてしまったことがあるに丸をつけた人の数です。」</p> <p>T:「今日は、ある小さなねずみが嘘をついてしまったお話を読みます。」</p>	<p>C:「先生たちの数。」</p> <p>C:「みんなの数。」</p>
<p>2 資料「あのね」の内容を確認する。</p> <p>～電子黒板上で「あのね」を流す～</p> <p>T:「一緒に内容を確認していきます。」</p> <p>T:「何というねずみだったかな。」</p> <p>T:「もう一人出てきました。」</p> <p>T:「ある日チッチが森に行くと、何かを見つけました。」</p> <p>T:「その赤い車をどうしましたか。」</p> <p>T:「森に遊びへ行くと、トービーに会いました。トービーは何をしていましたか。」</p> <p>T:「赤い車知らないかなと言われたとき、チッチは何と答えましたか。」</p> <p>T:「本当に知らなかったのかな。知らなかったと思う人?知っていたと思う人?」</p> <p>T:「知っていたのだよね。」</p> <p>T:「チッチは嘘をついてしまいました。」</p> <p>T:「トービーあのね」「うん?」「その後チッチは何と言いましたか。」</p> <p>T:「嘘をついたとき、『なんでもない。』と言ったのだよね。『なんでもない。』と言ってしまったとき、チッチはどんな気持ちだったと思いますか。」</p> <p>T:「なぜチッチは『なんでもない。』と本当のことを言わなかったのだろう。」</p> <p>T:「チッチは、『どうしてもいえない。むねがちくちくい</p>	<p>C: 94ページを開く。</p> <p>C:「チッチ。」</p> <p>C:「トービー。」</p> <p>C:「車。」</p> <p>C:「赤い車。」</p> <p>C:「家に持ち帰っちゃった。」</p> <p>C:「車を探していた。」</p> <p>C:「知らない。」</p> <p>C: 全員知っていたと思うに挙手</p> <p>C:「何でもない。」</p> <p>C:「嘘をついちゃったな。」</p> <p>C:「嘘をつかなかったらよかったな。」</p> <p>C:「心がちくちくしている。」</p> <p>C:「トービーに怒られるかと思った。」</p> <p>C:「車がかっこよくて、返すのが嫌だった。」</p>

たい。とげがさきつたみたいに。うそって、とげなんだ。どうやったらぬけるんだろう。』と言いますね。胸がちくちくしている時の気持ちを考えてもらいます。

～ワークシート配布～

T:「胸がちくちくいたくなつたチッチはどんなことを考えているでしょうか。書いてみてください。」

～机間指導～

T: 一人の児童の考えを、電子黒板上に写す。

T: 「〇〇くん、何がどうしようなのかな。」

T: 「お隣さんと交換して、違ふなという意見を見つけてみよう。」

T: 「発表してもらいます。」

T: 「色々な気持ちが混ざっているのだね。」

T: 「次の日、チッチは遊んだのかな。」

T: 「チッチは帰ってしまいました。そしたら、トービーがやってきました。何を持ってきましたか。」

T: 「チッチはトービーにお礼を言いました。『あ、ありがとう。だけど、だけど……。』と言って、正直に赤い車をトービーに返しました。」

T: 「赤い車は、実はおにいちゃんの車でしたね。トービーも、実は嘘をついていました。」

T: 「その後チッチとトービーはどうしましたか。」

T: 「二人はブランコに乗っていました。ブランコをこぎながら、チッチとトービーはどんなことを話していたと思いますか。」

T: 「どうして本当のことを言ってよかったのですか。」

電子黒板上に写し出された考え

・どうしよう。どうしよう。

C: 「トービーに嘘をついちゃった。」

C: 「どうしよう。どうしよう。ぼくトービーに嘘つ  
いちゃった。」

C: 「この車も返したくない。でも本当のことを言っ  
たら、トービーは遊んでくれなくなるのかな。」

C: 「嘘をついちゃった。嘘をつかなければよかった。  
明日正直に話そう。」

C: 「なんで返せないのだろう。返そうかな。」

C: 「ぼくが嘘をついちゃったから、遊んでくれない  
かもしれない。この気持ち、嫌だな。」

C: 「ううんと言って遊ばなかった。」

C: 「胸がちくちくするから。」

C: 「(とげを) 抜くもの。」

C: 口々に「嘘をついていた」とつぶやく

C: 「お兄ちゃんに返しに行った。」

C: 「一緒におやつを食べよう。」

C: 「嘘をついても本当のことを言ってよかった。」

C: 「もうちくちくしないですっきりする。」

T:「なぜもう嘘をつかないって言うと思うの。」

### 3 今までの生活を振り返る。

T:「チッチとトービーみたいに、正直に言えばよかったなということはありませんか。」

T:「たくさんの方が正直に言いづらいことがあると言っていました。これからみなさんはどうしていきたいですか。」

～机間指導～

T: 一人の児童の考えを、電子黒板上に写す。

T:「難しいので書けた人に発表してもらいます。」

T:「こういう風とはどういうことですか。」

T:「友達の考えを参考にして考えてみてください。」

### 4 教師の説話を聞く。

T:「実は小学校5年生の時に、チッチと同じような気持ちになったことがあります。ボール鬼で、鬼じゃなかったけど、ボールを投げたいなと思ってボールを投げました。そしたら、友達の顔にボールを当ててしまいました。自分が当ててしまったと言い出せずに、ずっとちくちく、ドキドキしながら考えていました。

帰るときに、勇気を出して『当てたのはぼくなんだ。』と謝りました。仲直りをして、それからまた一緒に遊べるようになりました。

これから、『どうしよう。』『まずい。』と思うことがあるかもしれませんが、みなさんも正直に言えるといいなと思います。

C:「もう絶対に嘘をつかない。」

C:「ちくちくしたり、ドキドキしたりするから。」

C: ロ々に「ある」と答える

C: ワークシートに記入

電子黒板上に写し出された考え

・勇気を出して正直に言う。

C:「ママに相談する。」

C:「これからこういう風に解決していく。」

C:「正直に言っていく。」

C:「もう絶対悪い嘘をつきたくない。」